

子どもの有無により、 女性のイメージは変わるのか

—映像を用いた検討—



生活文化学専攻 安藤ゼミ

04421040 畑 奈津子

【目的】

同一の女性を

「子どものいる女性」として見た場合と、

「子どものいない女性」として見た場合では、

印象に差が出るのであろうか。

あるならば、どのような差なのであろうか。

ということを検証する。

【仮説】

「子どものいる女性」は

より女性的なイメージが持たれ、

「子どものいない女性」は

どちらかというと男性的なイメージが
持たれるのではないか。

【実験の流れ】

(対象者: 奈良女子大学の学生 43名)

「子どものいる女性」

条件のグループ

「女性は28歳で、
2歳の子供がいます」と紹介

「子どものいない女性」

条件のグループ

「女性は28歳で、
子どもはいません」と紹介

映像を見る

質問紙に回答する

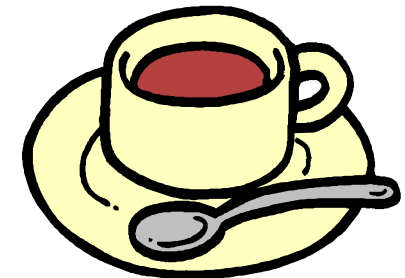
【映像の内容】



(約13分間)



- ①家で料理をするシーン
- ②家でパソコンを操作するシーン
- ③外出しカフェで人を待っているシーン



【結果（印象評定）】

—有意な差がみられた項目—

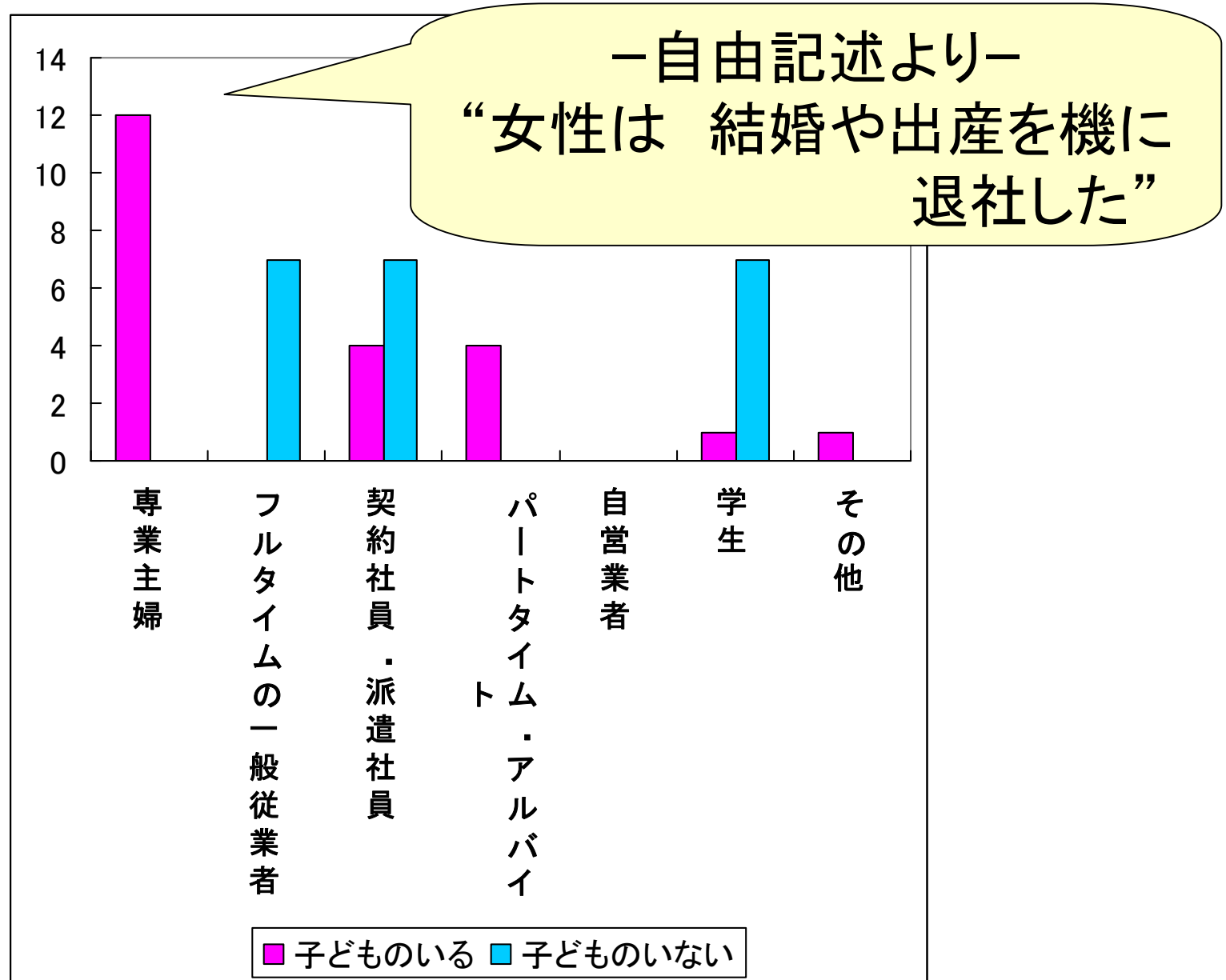
子どものいる女性は

- 「気配りの**ない**」
- 「きちんとして**いない**」
- 「信頼でき**ない**」
- 「責任感の**ない**」
- 「**自己中心的な**」

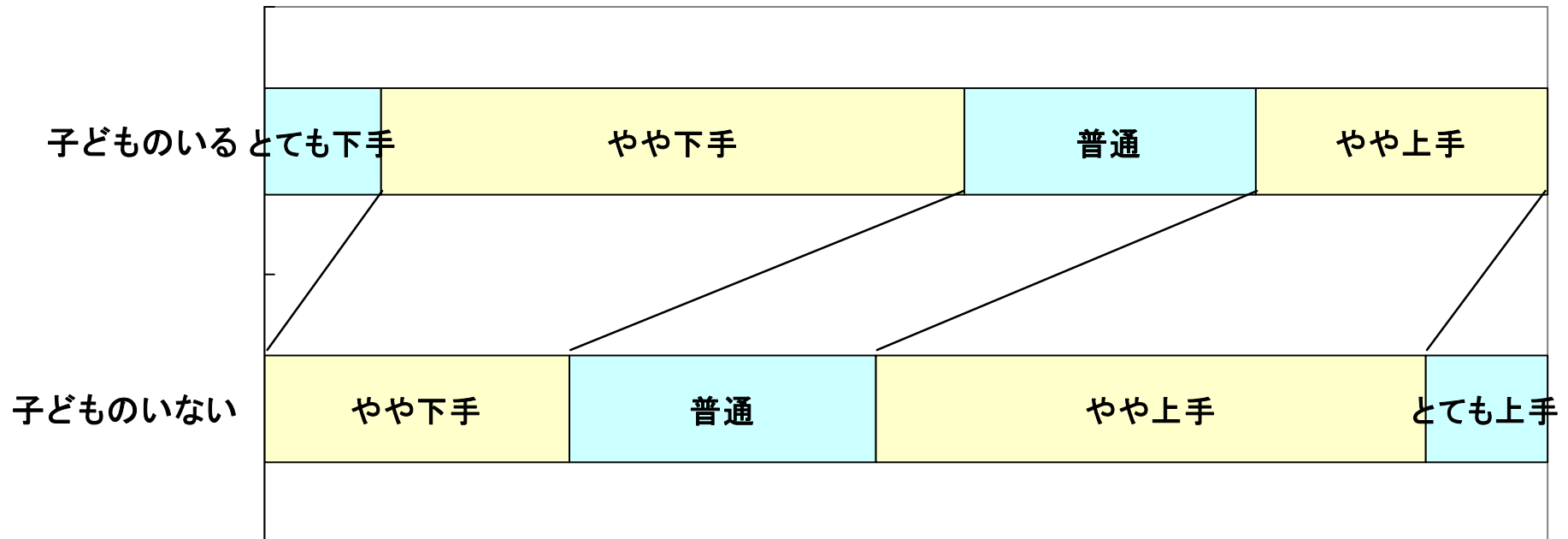
5項目すべて

否定的な
イメージ

【結果(就業形態)】



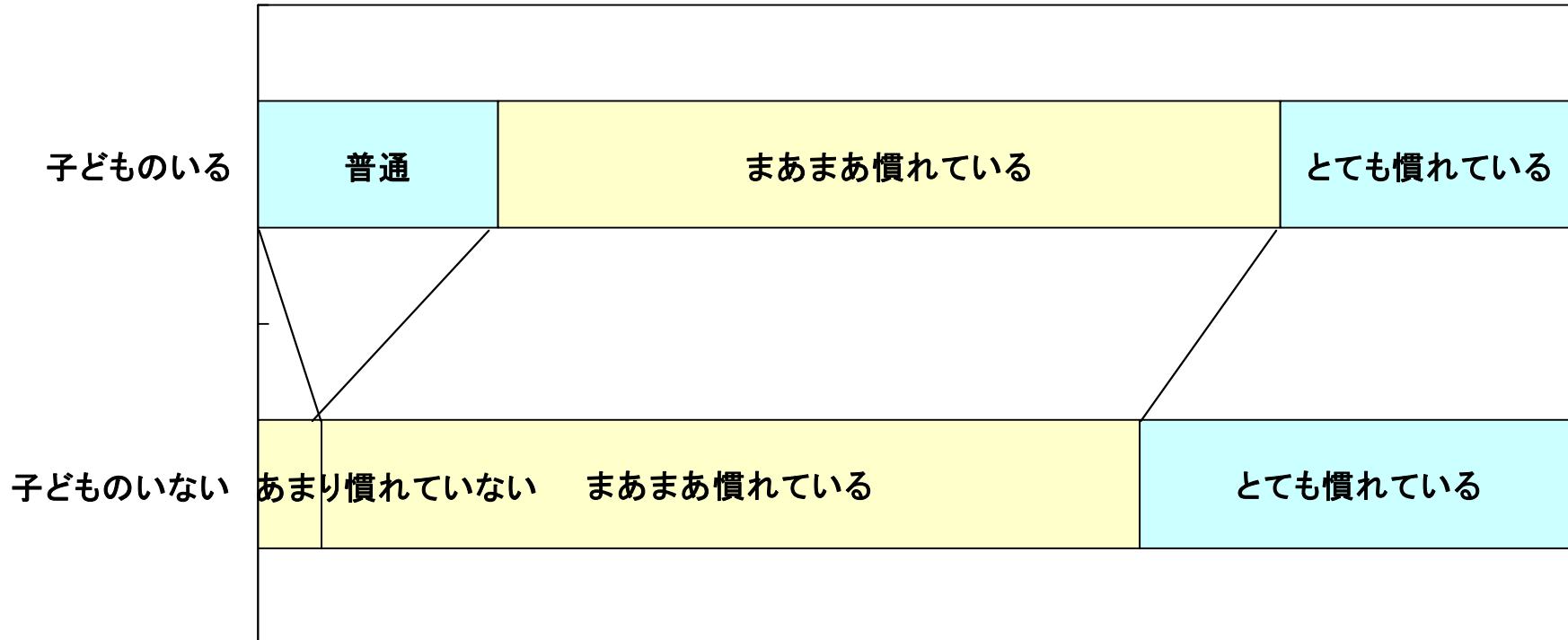
【結果(料理の腕前)】



子どものいる女性の方が

「より料理の腕前は下手である」と評価された

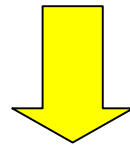
【結果（パソコンの慣れ具合）】



子どものいる女性の方がどちらかというと、
「パソコンの操作に慣れていない」と評価された

【考察 I】

子どものいる女性の方が
料理の腕前が下手だと評価された



2歳の子どもがいれば、家事ができて当たり前

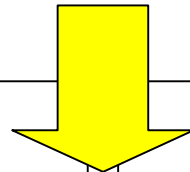
「子どもがいるくせに料理が下手だ」

女性らしさに対する**要求水準が上がった**

【考察Ⅱ】

印象評定→「気配りのない」など
料理の腕前→下手
パソコンの操作→慣れていない

子どものいる女性は、否定的な印象



「**内集団ひいき**」の効果

被験者は

子どものいない女性

子どもの年齢を
2歳に設定



2歳の子どものがいるのに
子育てをしていない



終